

準備室

72.7 x 60.6 cm
油彩 キャンバス
2016



「美術屋・百兵衛」では、これまで何度か画家・野崎謙と彼の作品である「人形画」を紹介してきた。人形画とは野崎独特の絵画のことで、現代美術的な平面性とイリュージョンを背景に、アングルやダヴィッドの新古典主義風の人物を、しかも凛と

した日本女性を配した作品である。ここで紹介する4点の作品の中では、右頁の『MARI』が、彼が手掛けたきた人形画の典型的なスタイルだと言えるだろう。女性の頭から伸びる触覚のような物体は、新しい絵画空間の創造を目指す野崎が到達した



MARI
72.7 x 53.0 cm
油彩 キャンバス
2015

未来を見つめる若者たちの
性格や内面までを描き出す。

Ken Nozaki

洋画家

野崎 謙



ひかり
90.9 x 65.2 cm
油彩 キャンバス
2015

ひとつの答えである。この絵の主人公は、約20年前から描き続けている女性。これまで彼は何人かの女性にモデル役を務めてもらい、何年にも渡って彼女たちの姿を追い続けてきた。まるでその成長を見守り、人生をなぞるかのようには。

野崎の人形画は、近年新たな展開を見せている。右頁の『ひかり』をご覧いただきたい。モデルが、制服の少女に変わったことに気付くだろう。絵筆を握る傍ら、複数の教育現場で後進の指導にあたっている野崎。ここ数年はその仕事が忙しく、アトリエで大人の女性を描く時間が少なくなり、結果的に生徒たちをモデルに描く機会が増えたのだ。画面に表現されているのは、若い女性の外観だけではない。『ひかり』の少女はどこか不安そうな表情をしている。実はこの時、彼女は就職試験を控えていたのだ。そんな心機までを、野崎作品から読み取ることができる。